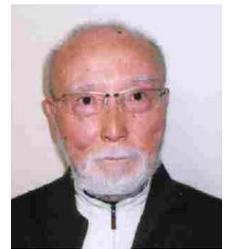


かまにし

第86号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

わがまちの顔



「仏像彫刻」で終活する蒲田人

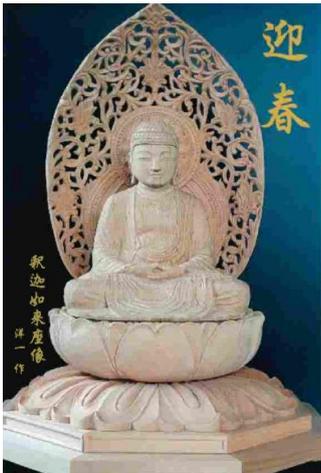
ふくまる よついち

福丸 洋一さん

昭和十七年に西蒲田四丁目出生し、昭和二十年以降は西蒲田六丁目で育った生粋の蒲田人の福丸洋一さんをご紹介します。

幼少の頃、現在解体中の都税事務所の前身の建物が戦災で破壊されたコンクリートの塊や、剥き出しになった鉄骨が無残にされた跡地を遊び場としていました。

そのブロック東に以前はマルホ市場があり、その前身は蒲田松竹・蒲田東宝の映画館があり、その映画館を棟梁として手掛けたのが父親で、元宮大工であり、そして信心深い人だった。そうしたことが仏像作りに影響したのではないかという事です。



若い頃から古寺巡礼に嵌まり、奈良・京都滞在を繰り返していた。社会人(建具職)になってからは、鎌倉の古刹、円覚寺で一週間ほど座禅三昧し、下山すると俗世界が美しく見えたそうです。

勤務先の業務で比叡山・延暦寺を担当することになりましたが、住職から夏安居に参加を勧められ「座禅」と阿闍梨に先導され十時間以上の「回峰行」(比叡山の山中を一晚かけて駆け巡る)を実修(千日回峰行の千分の一)し、当時の天台座主から受戒、僧侶への道が開かれたものの、寸前に娑婆に思い止まったそうです。

仏像彫刻を始めたきっかけは、八ヶ岳にありました。五十代に入ってから、自然回帰の意識に導かれ、週末はログハウスを建て、山麓の部落に畑を借り農業をして地元民交流、たまたま訪ねた養蜂場で見かけた手作りの仏像に惹かれ、村の彫刻サークルに参加した。

晴耕雨読&彫刻の日々が始まりました。定年後、一年の半分は山中に

滞在。

現在、私が師事しているのは、悦心会(関悦雲仏師代表)所属の昆野悦慶仏師で、慶派・琳派の流れを汲み、大河ドラマ「どうする家康」の松潤が仏像彫刻をするシーンの彫刻指導を担当しています。「仏像を彫る」心得は、木を「彫る」のではなく、木の中におられる仏さんをお迎えする「気持ち」が大事であると教えられました。その心得を実践しています。

私は、終活の一環として彫った仏像・釈迦如来坐像を自分の位牌にします。現在は女房の位牌・不動明王像坐像を作成しています。迫力があって、実物にそっくり、そのまま再現できるよう頑張っています。

作品を公開されたのは、今年の年賀状に作品の写真を使用されたのがきっかけで、今回が初公開です。以前から交友のあった方達も、年賀状で初めて福丸さんが仏像彫刻をなさっている事を知って、皆様が驚かされたようです。

最後に、福丸さんは蒲田人としての私見ですが、蒲田は、その立地が東京の西の玄関であり、蒲田線開通により日本の玄関になりました。飛躍が楽しみです。

(取材 中田・斉藤委員)

SHUTOKO RENEWAL PROJECT

高速大師橋リニューアル

高齢化が進んだ橋梁の架け替え工事のため

1 羽田線 2週間通行止

2023年

5月27日(土) 5時 ~ 6月10日(土) 5時

通行止
区間

1 羽田線平和島出入口・東海JCT ⇄ K1 横羽線大師出入口

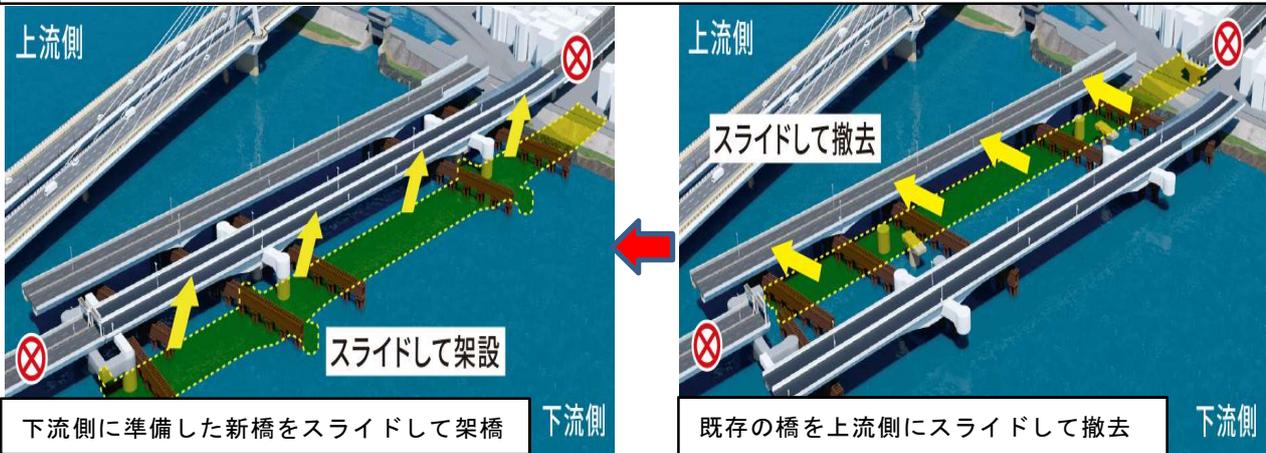
この記事を読んだ方は、これから現地に行くと
すごい工事を目撃できるかもしれません

生まれ変わる高速大師橋

首都高速道路は一九六二年に誕生、二年後の東京オリンピック開催に交通面で貢献しました。以後高度経済成長、国際化、IT化、東京二〇二〇大会の開催へ時代と共に変化を遂げる首都圏の大動脈となつていきます。経済発展に伴い首都高の交通量は一九六四年の一日六万台から二〇二二年は百万台と急速に増加し過酷な使用状況により補修箇所も急激に増加、それでも適切な維持管理により社会を止めることなく守ってきました。一方、初期に建設された路線は長期的な安全性の確保から抜本的対策が必要となっております。一九六八年に開通した高速大師橋も多摩川を渡る一日八万台の交通量を支え続け、これまで一二〇〇か所以上のき裂が見つかっています。きめ細やかな点検と適切な補修により安全安心を確保しています。が、長期的な安全性を確保するため、き裂が発生しにくく長期の耐久性と維持管理性を備えたより優れた構造へと高速大師橋を造り替えます。百年先の未来のために。

難工事であることは図を見るだけでおわかりでしょう 身近でこれだけの工事はなかなか目撃できませんよ

二週間の通行止時の主な作業



首都高に取材依頼

上記三段の記事は大半を首都高大師橋リニューアルホームページから引用させていただき、標題とキャプションのみ作成しました。首都高お客様相談室に本紙のことを説明して、取材が可能かどうか伺ったところ、後日、更新・建設局の事業管理課の担当の方を教えてください、お忙しい中、職場に伺ってご説明し、たくさんの方を教えてください、記事の作成についてご了解をいただきました。その時、四月一〇日の大田区自治会連合会の会議の中で説明された首都高速一ノ羽田線二週間通行止が影響を及ぼす可能性のある範囲を見せていただきましたが、第二京浜国道も影響を受ける可能性があるとのことでした。その後、四人の編集委員が蒲田西特別出張所の会議室に集まり、委員の一人が作成したたたき台と、いただいていた資料等を基にして、ミニ編集委員会を行いました。三月末に開催された全体編集委員会で本記事は四面に掲載する予定と決まりましたが、取材者四人からは「四面ではスペースが狭すぎて十分な内容を紹介できないのでは」との意見も出たため、二・三面の記事としても原稿を作成してみることとなりました。それが、この原稿です。

現地に出発

本紙が発行される時(六月一日)には首都高羽田線は通行止となっており既存の橋を上流側にスライドして撤去し、下流側すぐのところでもスライドして架設するという、工事のメインイベントの期間にあたります。そこで編集委員も現地まで行ってその目で確認する作業が必要だとのことになり、四月四日と四月一日に現場を訪問しましたのでご紹介いたします。

蒲田駅東口1番乗場から羽田車庫か大師橋下行の京急バスで大師橋下を降りて少し歩けば現場です。(1番乗場から六郷橋行も出ますが大師橋下まで行かないので乗らないでください)料金は二二〇円、三〇分ほどで大師橋下に着きます。このバス停は一般道路の大師橋の大田区側のすぐ下にありますが、目的地は首都高大師橋なので東に進む必要があります。少し歩くと首都高が見えてきてその下を右折すると土手に出ます。途中からあまりに巨大な構造物が見えてきて、びっくりすると思います。街中でのこれだけの工事を公開で行っているところはなかなかありませんよ。小旅行にはピタリだと思えますが、いかがでしょうか。(取材 深井・下山・近藤・大良委員)



上左は新たな橋 上右は既存の橋です 5月27日から6月10日の間に、右側にスライドして橋が更新されます



新橋の左側から見ると、多くの作業員さんが工事中でした 新たな景色の出現を楽しみに待つことにしましょう

「存じですか？」

我が街の不思議なショーウィンドー

まちを歩いてみると、不思議な景色を目にすることがあります。まずは左の写真をご覧ください。

ショーウィンドーになぜ？
多摩川一丁目のトイレ・バス・キッチン等水回りリフォーム会社



幼稚園近くの内装リフォーム会社のショーウィンドー



矢口渡駅近くのビルのショーウィンドー

のショーウィンドーには人形が四〇体以上飾ってあり太陽光電源で日光があたると一斉にユラユラと動き出す。

他の場所にも
左はミニカーを約百台弱飾ってあるショーウィンドーですが、ミニカーを売っているお店ではありません。矢口渡駅近くの居酒屋さんや不動産会社が入っているビルのショーウィンドーです。「なぜミニカー？」と声をかけたくなりますが、こうした風景を見ながら外を歩いていると、少しだけ幸せな気持ちになることができます。
コロナ感染等が心配で不要な外出を避けている方もいらっしゃる

何が起きたのだろうかと思いが小さいお子様には大人気。幼稚園のそばにある会社なので登園・退園時に離れないお子様を良く見ます。私の孫たちも大好きです。この人形が会社の売上に貢献しているかどうかわかりませんが飾った方の熱意を強く感じます。

かもしれないませんが、あまり動かないでいると体が動かなくなってしまうかもしれない。部屋で体操やストレッチをして体を整えるのも良いですが、天気の良い日は外に出てみると気持ち良いですよ。

皆様のお近くに不思議な風景が見つかりましたら事務局までお声をおかけください。私達と一緒に記事を作ってみませんか。お待ちしています。(取材 大良委員)

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。
事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七一二一
電話 3732・4785

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,410人
	女	30,000人
	計	62,410人
世帯	37,086世帯	

令和5年5月1日現在